

社会的背景と現状分析

【社会的背景】

- ① 人口減少と少子高齢化の進展
(人口減、生産年齢減による地域経済活力の低下)
- ② 安全・安心な暮らしに対する意識の高まり
(東日本大震災、熊本地震等自然災害への対応)
- ③ 経済雇用環境の変化
(雇用環境の確保、持続可能な社会保障制度への転換)
- ④ 環境問題の深刻化
(地球規模での環境問題、循環型社会・自然共生社会の実現)
- ⑤ 地方分権・地方自治の進展
(多様化する行政サービスへの対応と持続可能な運営)

【総合戦略の基本目標】

- ① 地域資源を活かした魅力あるまち
- ② 魅力ある仕事・職場のあるまち
- ③ 若い世代から選ばれるまち
- ④ 安全安心して暮らし続けたいまち

【紀の川市の現状】

- ① 人口減少と少子高齢化の進展
(総合戦略、人口ビジョンで分析、総人口、年少・生産年齢人口減、高齢化比率増による地域経済活力の低下)
- ② 大規模自然災害への対応
(南海トラフ地震・中央構造線断層帯地震への対応、安全・安心なまちづくりの推進と危機管理部設置による強み)
- ③ 基幹産業である農業の維持・強化
(多種多様な農産物「フルーツ＝戦略の強み(核)」、反面、価格低迷・後継者不足存続の危機)
- ④ 雇用創出と産業振興
(国の地方創生においても「仕事＝雇用」は要、当市(県)においても進学や就職を機に転出傾向)
- ⑤ 安定した財政運営の取り組み
(普通交付税の合併算定替えの逡減、公共施設マネジメント計画の推進、行政評価を活用しPDCAサイクルによる行政経営への転換)

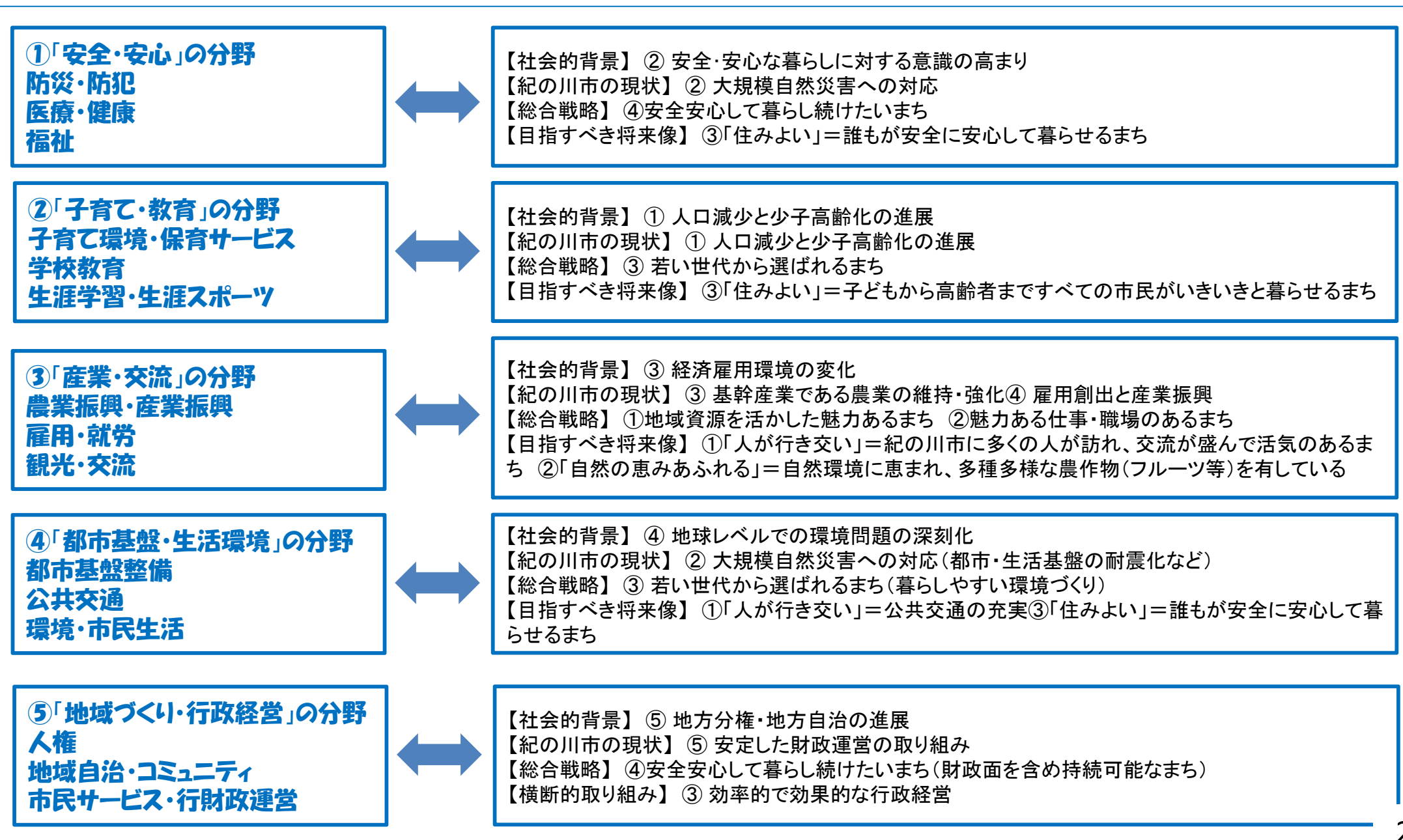
人が行き交い 自然の恵みあふれる 住みよいまち 紀の川市

【将来像に込められた想い】

- ①「人が行き交い」＝紀の川市に多くの人を訪れ、来訪者・住民問わず交流が盛んで活気にあふれるまち
- ②「自然の恵みあふれる」＝恵まれた自然環境、豊かな地域資源を活かした魅力あふれるまち
- ③「住みよい」＝生活している誰もが安全に安心して暮らせるまち、子どもから高齢者まですべての市民がいきいきと暮らせるまち、本市に関わるみんなが紀の川市に愛着をもっているまち

第2次長期総合計画基本構想における計画体系とまちづくりの目標設定の考え方 【資料2 参考資料①】

目指すべき将来像「人が行き交い 自然の恵み豊かな 住みよいまち 紀の川市」を達成するため、市民の皆さまの意見をはじめ、社会的背景や紀の川市の現状を勘案し、以下の計画体系を設定しました。（第5回審議会で承認済み）



各分野の「まちづくりの目標」（政策目標）設定の考え方

【資料2 参考資料①】

第2次紀の川市長期総合計画
序論及び基本構想（案） 10ページ

安心して健やかに暮らせるまち
～ともに支え合おう～

安全・安心は市民の生活を支える大事な基盤です。誰もが不安なく暮らしていくためには、子どもや高齢者が巻き込まれる犯罪や交通事故を防止するとともに、南海トラフや中央構造線断層帯による地震などの大規模自然災害への対応が強く求められています。

そのような中、消防団や自主防災組織の活動を支援するとともに、防災訓練の実施など市民とともに防災意識を高め、防災・防犯設備の充実や交通安全運動の推進により、地域一体となって防災・防犯対策を強化することが重要になっています。

また、市内の医師不足や設備の充実をはじめとした医療体制の充実や市民の健康づくりを推進することを目指します。

子どもや高齢者、障がいのある方といった多様な市民が心から安心して暮らすためには福祉の更なる充実も欠かすことはできません。必要な人に適切な福祉サービスを提供し、市民がともに支え合うことで不安のないまちづくりを目指します。

【各分野(政策)の将来像】

市民ワークショップでの「10年後どんなまちを目指すのが理想か」を材料に、職員ワークショップ、および事務局で磨き上げ作成

【各分野(政策)の課題】

市民ワークショップでの「今後10年で優先して取り組むべきこと」や基本構想(案)のP4「社会環境の変化」やP7「市の現状と課題」を材料に、職員ワークショップ、および事務局で磨き上げ作成

【各分野(政策)での役割】

市民ワークショップでの「市民にできること・行政に望むこと」を材料に、職員ワークショップ、および事務局で磨き上げ作成